

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「元氣わくやふれあい町づくり事業」～子供たちの学びを地域で支える (宮城県涌谷町)

取組の概要や経緯

平成22年9月に元氣わくやふれあい町づくりサポートセンターを立ち上げ、学校支援本部事業として開始した。

支援対象は町内全ての小中学校及び幼稚園等まで展開し、学校支援や放課後子ども教室を地域住民と協働し推進している。

平成28年4月から評価検証委員会を立ち上げ、各事業の課題や効果の測定、事業の評価・検証を行っている。

内容

学校支援活動では、学校の要請により、学校の環境整備や授業支援等を行っている。元氣わくやふれあい町づくりコーディネーターが、学校と地域ボランティアを繋ぎ調整を行い活動を行っている。

放課後子ども教室では、各小学校において、放課後子ども教室のコーディネーターが中心となり、地域性や学校の特性に合わせた事業を企画し、地域の中から講師を依頼するなど地域人材を積極的に活用し様々な体験学習の機会を提供している。

ポイント

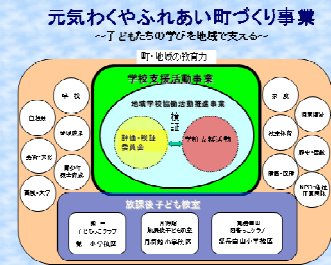
- ①元氣わくやふれあい町づくりコーディネーターが各学校と密にコミュニケーションをとり、支援内容や支援者の検討を行い速やかに調整し支援している。
- ②放課後子ども教室は、各小学校の地域性や特性を活かした体験型の事業内容を企画。また、地域人材を積極的に活用することで地域との連携・協働の推進と地域コミュニティの活性化を図る。
- ③町内小中学校を訪問し、各種事業の説明を行い事業の理解、活用、情報の共有を図る。

成果

学校支援事業においては、学校からの要請により、環境整備(トイレ掃除の指導・図書整理等)や授業支援(バケツ稲、調理実習・ミシン・書初め等)、児童の見守り(PTA総会時などの見守り)、読み聞かせなどさまざまなボランティア支援が行われた。

また、授業支援では、地域のボランティアが支援することで、児童一人一人にサポートすることができた。地域の方々が活動することで、地域と学校の自然な交流が推進され、また、居住地の小学校でボランティア活動をすることにより、地域コミュニティの活性化も図ることができた。

放課後子ども教室では、コロナによる制限がなくなったことで学校や地域の行事が増えたこともあり、開催回数は増やさず企画した。参加児童はたいへん楽しみにしており、地域のスタッフとの交流とともに、地域の中から講師を依頼し、絵手紙教室や創作教室、ニュースポーツ、高校書道部による書道教室等を体験することで、多世代の交流や地域住民との交流を深めることができており、支援しているスタッフや、ボランティアなど地域住民の活動の場づくりや生きがいがいづくりに大いに役立っている。



今後の方向性

- ・学校支援活動においては、学校と地域住民が気軽に交流を図れる場を設け、スムーズな支援を学校と連携し行う。
- ・放課後子ども教室においては、地域の人材から講師を招き、地域に根ざした体験活動を行う。
- ・支援者となる地域人材の育成、発掘に努め、また保護者にも参加を促し、協働教育の推進を図る。
- ・『できる支援をできるときに、できることから』を合言葉に地域住民の協力をもらいながら、よりよい協働教育の推進を図る。